

## 5 領域（健康・生活）とのつながりを明確化した支援内容

### 【放課後等デイサービスいろえんぴつ】

● 項目	● ねらい
健康・生活	<ul style="list-style-type: none"><li>① 健康状態の維持・改善</li><li>② 生活のリズムや生活習慣の形成</li><li>③ 基本的な生活スキルの獲得</li></ul>
<p>● 具体的な支援内容</p> <p>健康状態の把握： 利用中における定めた時刻での定期的な検温にて体調観察を行い、体調不良時の把握をいち早く行う。 また、自らの体調について意識付けを行い健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出す事を支援する。</p> <p>健康の増進： 集団活動においてラジオ体操などの基礎運動を取り入れ、体力の維持および運動能力の向上を支援する。 また、健康生活の基本となる体づくりを行う。</p> <p>基本生活スキルの獲得： 個別活動の中で、整理整頓（片づけ）の習慣をつけるための時間を確保する。 身の回りを整理して、効率の良い生活を送るために必要な基本的技能を獲得できるよう支援を行う。</p> <p>構造化により生活環境を整える： 個別活動および集団活動等の中で、さまざまな遊びを通して全体の状況や流れを学習できるよう環境を整える支援を行う。 また、障がい特性に合わせ、タイミングや状況（全体像）を本人が理解できるよう「見える化」するなど分かりやすく構造化する。</p>	

## 5 領域（運動・感覚）とのつながりを明確化した支援内容

### 【放課後等デイサービスいろえんぴつ】

● 項目	● ねらい
運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"><li>① 姿勢と運動・動作の向上</li><li>② 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用</li><li>③ 保有する感覚の総合的な活用</li></ul>
<p>● 具体的な支援内容</p> <p>姿勢と運動・動作の基本的技能の向上： 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や、運動・動作の改善および習得、筋力の維持・強化を図る。 個別活動の中で、椅子や机を用いた支援において正しい姿勢の習得。</p> <p>感覚の補助及び代行手段の活用： 保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすいようにメガネや補聴器などの各種の補助機器を安全に効果的に活用できるよう支援を行う。</p> <p>保有する感覚の活用： 保有する視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用できるよう、遊具や器具を使った遊びなどを通して支援を行う。 縄跳びを使ったタイミングの感覚やバランスの感覚、ボールを使った体の動かし方や強弱の力感覚、方向感覚の習得。</p> <p>楽しく運動ができるよう、状況（屋内・屋外・広さ・安全の確保）に合わせた道具や方法を用いて支援を行う。</p>	

## 5 領域（認知・行動）とのつながりを明確化した支援内容

### 【放課後等デイサービスいろえんぴつ】

● 項目	● ねらい
認知・行動	<ul style="list-style-type: none"><li>① 認知の発達と行動の習得</li><li>② 空間・時間・数等の概念形成の習得</li><li>③ 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得</li></ul>
<p><b>● 具体的な支援内容</b></p> <p>感覚や認知の活用： 障がい特性に応じた、視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用して必要な情報を収集しやすいよう、色、音、絵や文字、道具を用いて、認知機能の発達を促す支援を行う。</p> <p>知覚から行動への認知過程の発達： 集団活動やグループ活動支援の中で、活動内容（環境）から情報を取得しやすいよう絵ガードやルール表を用いて「見える化」するなど、必要なメッセージを自ら選択し、行動につなげられるよう一連の認知過程の発達を支援する。。</p> <p>数量、大小、色等の習得： 数量の予測、大小の選択、色の認知など作品完成までの流れに関する行動や手掛かりとして活用できるよう、折り紙や色画用紙を用いて千羽鶴などの制作を取り入れながら支援する。また、色積木などを用いて特性に合わせた支援を行う。</p> <p>認知の偏りへの対応： 認知の特性を踏まえ、絵カードやスケジュール表などを用いて自分に入ってくる情報を適切に処理し、自ら選択して安全に正しく行動できるよう支援し、認知の偏りなどひとりひとりの特性に配慮する。 また、おやつを提供によって、こだわりや偏食に対する支援を行う。</p>	

## 5 領域（言語・コミュニケーション）とのつながりを明確化した支援内容

### 【放課後等デイサービスいろえんぴつ】

● 項目	● ねらい
言語・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"><li>① 言語の形成と活用</li><li>② 言語の受容及び表出</li><li>③ コミュニケーションの基礎的能力の向上</li><li>④ コミュニケーション手段の選択と活用</li></ul>
<p>● 具体的な支援内容</p> <p>言語の形成と活用： 集団活動の中で「子ども会議」などを行い、議題にそった発表の機会を設ける。 これにより具体的な体験や言葉の意味を結びつけるなどにより、体系的な言語の習得、自発的な発言を促す支援を行う。 また、自分の考えを伝えたり人の意見を聞き入れて相手の意図を理解するなど、人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得を目指す。</p> <p>読み書き能力の向上のための支援： 独自に作成した読み書き支援用テキストやプログラミングなどを用いて読み書き能力の向上を目指す。 また、文字カードや歴史カルタなどの教材、知育玩具を用いてひとりひとりの能力に合った読みの向上を目指す支援を行う。</p> <p>コミュニケーション機器（道具）の活用： 集団活動やグループ活動の中で、糸電話や伝言ゲームなどの遊びを通して意思の伝達が円滑にできるよう支援を行う。</p>	

## 5 領域（人間関係・社会性）とのつながりを明確化した支援内容

### 【放課後等デイサービスいろえんぴつ】

● 項目	● ねらい
人間関係・社会性	<ul style="list-style-type: none"><li>① 他者との関わり（人間関係）の形成</li><li>② 自己の理解と行動の調整</li><li>③ 仲間づくりと集団への参加</li></ul>
<p>● 具体的な支援内容</p> <p>アタッチメントの形成： 話す、聞く、触れるなどのコミュニケーションを通して、人との関係を意識し、身近な人との関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。</p> <p>自己の理解とコントロールのための支援： 職員は児童生徒の特性を理解し、ひとりひとりに合わせた声掛け支援、行動支援を行い、自分の出来る事と出来ない事など自分の行動の特徴を理解し、気持ちや感情の調整ができるように支援する。</p> <p>集団への参加への支援： 個別活動からグループ活動へ順に進め、ひとりひとりの状況や状態に合わせて集団活動への参加を促す。 また、受け入れる側（集団）の児童生徒に対して、相手の気持ちや状況などを理解するための話し合いや声掛け支援を行い、安心して集団へ参加できるよう、また参加する方法の習得を支援する。</p>	